

第2回企画委員会 議事録

日 時：令和7年9月9日（火）15:30～17:30

場 所：2号館5階庁議室

出席者：委員4名、アドバイザー1名

■フィールドパビリオンの状況及び今後のあり方

委員等

- ・プレーヤーと気軽にコミュニケーションがとれる関係性ができてきただので、経営視点で継続性が高まるような取組についても議論ができるべき。

委員等

- ・今後、観光誘客的なコンテンツは、観光部局での推進対象に整理すればよい。
- ・地域振興としての考え方をフィールドパビリオンの哲学として残していくべき。

委員等

- ・プログラムを今後各部局に振り分けていくだけではフィールドパビリオンとしてまとめてきたものが再びばらばらになってしまう。
- ・県の役割として、中長期的で俯瞰的な立場からフィールドパビリオンプレーヤーを見ていく組織体制づくりが重要である。

委員等

- ・現場では、これまでの縦割りではできなかったような成果が出てきている。万博後も部局横断で地域資源の価値を磨き上げることが大切である。
- ・貴重な資源であっても、力がなく失われていくところがたくさんあるので、その部分に対して行政が支えることが重要である。

委員等

- ・普段関わった人たちと会うことができたのはプレーヤーの方々から大きな評価をいただいており、そこをしっかりと、今回成果として共有、可視化していくことも重要である。
- ・さらに重要なのは新たな地域資源の発掘である。価値はあるが、忘れられていたり、なかなかコミットできなかったりという地域資源をすぐ見つけ出すベースもこれからやっていく必要もある。
- ・その意味では、市町や観光協会等との連携も重要である。

委員等

- ・大きなフレームの話と具体的な話を何点か申し上げたい。
- ・フィールドパビリオンは、全く新しい試みではなくて、日本では古くからある地域丸ごと博物館あるいはミュージアムの、万博を契機とした特別な形態である。したがって、かつてのエコミュゼやエコミュージアムの成功事例や課題を踏まえた上で次の段階を考えるのが大事である。
- ・多くのステークホルダーが関わるムーブメント型で進めるべきである。そのため採算よりも、関わった方々の思いが強ければこれは成功という評価が一方で必要である。今回フィールドパビリオンに関わった多くの方々が、主体的にこれを継続しようという動きを作らなければいけない。
- ・そのため継承の組織としては、フィールドパビリオンを持続的に、5年10年県民運動として継続できるようあり方が大事である。

- ・2025年から始まった活動であり、次年度以降、スタートアップするという方向にシフトするため、万博のレガシーといった言葉をうまくコンセプトに入れながら、次の事業の立ち上げが出来ればよい。
- ・現段階では、国際社会との関係や国際化という面がなかなか評価できていない。うまく国際化対応できた事例があれば、前面に押し出してほしい。
- ・最後にフィールドパビリオンに関わった人達がどこかに集まって、何かお祭り騒ぎをする華々しいクロージングが欲しい。その場で参加者からも今後の展開について声があがっていくとよい。

委員等

- ・アフター万博に向けて、もう一度決起集会を開き、新たなスタートを切って、機運を高めることが大切である。
- ・プレーヤーには、自分たちの取組に誇りを持ってきたところに、万博で終わりではなくて、これからも頑張ろうとする取組が重要である。

委員等

- ・今回の報告書に、5周年か10周年に向けて理念を継承することが必要との言葉を入れてほしい。

委員等

- ・フィールドパビリオンが県全体の政策の中でどこに成果を残したかを整理したらよい。私は概ね観光振興・地域振興・商品開発・子育て教育・ツアーアイデア造成の5つだと思う。
- ・ツアーアイデアをサポートする人材を育てていくような施策があると面白い。
- ・いずれは民間で運営していくように、その地域の県民局と一緒にになってサポート人材が育まれていく仕組みができるとよい。

委員等

- ・フィールドパビリオンによって、顕在化した課題が見えてきて、それが現場で観光振興の政策などに反映されているのは非常に大きな成果である。
- ・定性的な成果をしっかりと整理をして、可視化し、これからの県政に活かしていく立付けがあるとよい。
- ・フィートパビリオンの活動から、県政に活かされる形をうまく作れれば、これは本当にすばらしい。

委員等

- ・「おてつたび」という、旅でありながら、旅先で仕事を手伝うというものが少しづつ流行ってきている。旅の定義も変わってきた。

委員等

- ・参加した対価は、お金ではなくて、地域コンテンツを体験できる等ちょっとユニークな等価交換性をもたせる仕組みがあれば先進的で面白い。自分たちで、「おてつたび博覧会」や「フィールドパビリオン博覧会」をやろうよみたいな流れに結びついていくような目標があれば理想的。

委員等

- ・プレーヤーが燃え尽きないように、次に向けてチャレンジしてみようとわくわくできるような仕掛けがすごく重要である。

委員等

- ・フィールドパビリオンをいかに持続可能なものにしていくかを私たちはしっかりと考えていく必要がある。

委員等

- ・サポートをしてもらうのではなく、自分たちが取りまとめていくキーパーソンがきちんとすれば続くと思う。

委員等

- ・アフター万博においても、フィールドパビリオンを続けていくという機運を温めてから次の段階に進んでいくのがよい。

委員等

- ・今回のフィールドパビリオンは、今後も続けていくことをメッセージとして伝えていくべきである。

委員等

- ・ひょうごフィールドパビリオン事業全体について、地域活性化に関するアワードへの応募を県庁として考えていただきたい。

■兵庫県ゾーン等の来場者の状況

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

- ・今年度は、学校の教育旅行の行き先の多くが万博会場となっており、関西の主な施設の入場者数や来園者数も激減している。兵庫県立美術館（ひょうご EXPO TERMINAL）に限った話ではないと思われる。

以 上